HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	モミジイチゴ
Author(s)	逸見, 勝亮
Citation	ほけかんだより, 80, 1-2
Issue Date	2008-01-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/39252
Type	article
File Information	hemmi_hokekan80.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

2008. 1. 28

ほけかんだより

北海道大学保健管理センター　第80号

モミジイチゴ

副学長　逸見 勝亮

◇昨年5月に、10年ほど前に教育学部を卒業した杉山岳さんが、有機農業を営んでいる「杉山農園」（茨城県石岡市大塚）を訪ねた。2度目である。今回は、鶏卵収穫、鶏への給餌、畦の踏み固め、カボチャ・ズッキーニ・トウモロコシ・トマトの植付け、堆肥運搬と施肥、薪割りなどを一所懸命に手伝った。産卵中の鶏は闖入者の手をつつく。袖口で手の甲を覆いながら暖かい卵を収穫する。与えた青草は最終的にはすべて喰うが、選んでついばんでいるからには鶏にも好みがあると見た。試みに30センチにも伸びたハコベを見せたら、飛びついてきた。周りの草よりも鮮やかな畦のアマガエルは、捕まえようとするとすぐ見失う。30kgほどの鶏糞の堆肥を袋に詰めてトラックの荷台に載せ、畑に撒くのはなかなかに骨が折れた。薪割りはお手の物である！材は間伐した杉。杉は柔らかいし、縦に割るのは易しい。杉の葉は走るように燃え小枝が爆ぜ、揺らめく炎のグラデーション。夜の雨垂れを聴きながら、薪をくべる。何と安らぐことか。5人分の湯を沸かすに熾きはたっぷり。

◇さて、休憩時間のこと。陽があたる灌木林の際の各所に黄色い木イチゴの実を摘んだ。農園主によればモミジイチゴだと。黄色い木イチゴは初めて見た。



モミジイチゴ

よく熟れた実ほど白い何かの幼虫が先住しているが、かまわず口にする。美味しいのはむろんだが、集果のつややかな黄色がかわいらしい。保育園運動会の遊戯、習い始めたピアノ、タマムシの羽などの話題とともに、6歳の友達・杉山りんと山の宝石を楽しんだ。「おかあさんとモミジイチゴがもっと沢山なっている所を見つけた。沢山採ったのでジャムを造ってくれるの。」とは、りんとのその後の電話話。どんな色に仕上がったであろう。

◇『新北海道の花』（梅沢俊、北海道大学出版会、2007）「モミジイチゴ」の項には、「葉は長い葉柄をもち、卵形～広卵形で3～5中・深裂する。裂片には切れ込みと鋭い鋸歯があり、先は鋭くとがる……道内の結実は稀という」とある。葉の形はヤマモミジなどと似ている。

◇僕は、1954年まで日本製鋼所室蘭製作所御前水町鷲沢社宅で過ごした。社宅は、母恋富士北西斜面に階段状に建っていた。第2次大戦から敗戦後にかけて労働者街の周辺山林は燃料に変じ、母恋富士も頂上まで四方が段々畑であった。1918年生まれの母は「昔の母恋富士は密林で子どもが行けるところではなかった」とよく口にした。ちゃぶ台ほどの切り株に鉞（マサカリ）を振るう人がおり、トチの実を拾った茶津山は鬱蒼としいたのだから、大木の存在を信ずることはできた。僕らは、その母恋富士のそこここで、クマイチゴを採って食べた。クマイチゴの実は他の木イチゴより大きいので、見つけると嬉しかった。山の甘味の記憶である。

◇鷲沢の一番高い場所にある社宅は、4畳半・6畳・8畳・6畳ほどの台所・風呂・納戸・縁側・庭・瓦葺屋根・庭・板塀という造り。その下は4畳半・8畳・1畳の台所、その下は4畳半・6畳・1畳の台所、いずれも長屋、共同水道、トタン葺屋根で斜面に接して建っていた。下の社宅ほど陽当たりと水捌けが悪かった。6軒長屋裏のかすかな流れには、1948年頃にはザリガ

ニがいた。流れの脇には赤い実を付ける「サルテンマリ（猿の手鞠）」があった。この樹がマユミと知るのはずっと後である。



マユミ（写真はいずれもhttp://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/BotanicalGarden/BotanicalGarden-F.html）

◇僕・すぐ下の弟・隣家のＹと3人で、トッカリショの先までカタクリを採りに行った。1954年5月のことである。樹下一面を埋めたカタクリの葉と点在する花は、満開のヤマザクラの木漏れ陽に揺れてある種の陶酔を誘った。僕らは一言も発することなく摘んだ。祖母は、持ち帰ったカタクリを茹で、「すぐ食べると下痢になる」と一晩水にさらし、朝食に供した。袋一杯の野草はわずかな量に減じ失望したが、茎が甘かった。ほうれん草の根の甘味は、別の食べ物でうち消してしまいたくなるが、カタクリのはそのまま消えずにいて欲しい甘味であった。この年11月に母は僕らを連れて再婚し、登別に引越したので、カタクリ採集はたった一度で終わった。僕の短い「山とのつきあい」も終わった。

◇りんは4月から小学生になる。会えるならモミジイチゴの花の色を尋ねねばならぬ。モミジイチゴが熟する頃、石岡辺りが北限のミカンの白い花が芳香を放つ。